

【意見集約】魅力と活力ある県立高等学校づくりに向けたご意見を聴く会<東近江>

日 時 平成 22 年 11 月 21 日 (日) 14:00 ~ 15:30

場 所 湖東信用金庫本店会議室 (参加者 41 名 : 発言 9 名)

(学校規模、学級規模関連)

小規模校の方がきめ細かな指導が行き届き、充実する。小規模校の課題は学校の努力で何とかかなと思う。小規模校にはきめ細かな指導を出来るメリットもあり、単純に生徒数が減少する理由での再編はやめ、生徒が救われるような学校づくりを考えてほしい。

(地理的、地域的関連)

地元中学校から地元高校への進学者が少ない状況は市町としての責任もある。

地元の高校は大学への進学率も低く、他の学校へ流れてしまうこともあるため、地元としても高校を盛り立てていくが、県教育委員会としても高校へのてこ入れをお願いしたい。

(計画の周知と意見反映関連)

高校再編への理解を求めている話には聞こえるが、意見を聴く会であるならば、出席者の多くの意見を聞いてもらうことが必要。よく意見を聴いてほしい。

本日は小・中学校等の保護者でいきなり高校再編の話をしてもらっても分かりにくい。我々保護者が一番聞きたいのは、学校の統廃合のこと。

小学校の子どもしかいない人の中にはよく知らない人もいるため、中学校の保護者には、学校を通して、再編状況について、チラシやプリントで伝える工夫がほしい。

意見は、議事録を公表することも含め、HPで誰にでもわかる形で公表してほしい。

(財政難と教育費関連)

教育はお金を最もかけるべきところで、これからの滋賀や日本を支える子どもを育成していく最も大切なこと。このような席で財政難を言うのは相応しくない。財政難はわかるが、子どもは未来の宝ということを大切に考えてほしい。

県に対して教育に関する財政の必要性を県教育委員会からしっかりと伝え、未来ある子どもたちによりよい教育が出来るようにしてほしい。

県予算の説明では平成 13 年度あたりからは横ばいで、教育予算の 9 割が人件費とのことだったが、残りの 1 割の内容をもう少し詳しく教えてほしい。

(特別支援学校関連)

高等養護学校があり、ノーマライゼーションが進んでいるが、まだまだ不足。特別支援の必要な子ども、不登校、家庭的に支援が必要な子どもが増えていることが気になる。

発達障害の生徒が増加しており、小・中学校の通常学級に約 6.3%の生徒が知的障害のない発達障害の生徒で高校進学をたどることになるが、LDなどの発達障害の生徒への高校でのきめ細かな指導が必要。高校では知的に障害のある子どもに対して、小・中学校のようなきめ細かな指導体制になっていない。

(説明資料関連)

資料の作り方にもう少し工夫が必要。資料はもう少し詳しい方が、今後、深掘りした議論の時には参考になる。

(生徒数関連)

生徒数の推移がここ 5 ~ 10 年は高校に進む生徒は減少しない。中学校卒業予定者は減少しているが、進学率が向上し、高校へ行きたい生徒が増えていることも蔑ろに考えないでほしい。

(スケジュール関連)

何年度に、いつまでにどうするというスケジュールはあるのか。

(その他)

再編計画の策定中であると聞くと、様々なところで統廃合の学校の実名が出されている学校は本当に再編するのか。再編校の実名が一人歩きしているのは困ったことだ。

大人が疲れている中でよい子どもたちは育たない。家庭への支援が必要。

同趣旨のご意見については集約して取りまとめました。説明資料に対する質問等については、省略しています。